

# 第22回品質工学研究発表大会報告



今回の大会では品質工学の創始者田口玄一博士が目指した本当の研究がますます進展した。品質工学を導入しようとすると、従来の研究の殻を破らねばならない。専門技術は「専門」という殻に守られている。トヨタ自動車（沢田龍作氏）「エンジンオイル消費のシミュレーションを活用したロ

久氏の「労働安全意識調査アンケート結果のMTシステムによる評価」は、名古屋地区の自動車部品メーカー500人の

品質工学会 理事・名誉会員  
応用計測研究所 代表取締役

矢野 宏

# 新しい研究の切り口の魅力

**発表テーマ件数  
101件**

6月26、27の両日、第22回品質工学研究発表大会が東京都品川区のきゅりあん（品川区立総合区民会館）で開催された。大会テーマは「品質工学の果たすべき役割を探る マクロ視点で問題解決からの脱却」とし、発表テーマ件数は101件、参加者は653人。今大会は20周年記念大会から数えて3年目に当たり、提言してきた「マクロ視点」についてのまとめとして、學會有識者による特別討論会「新しい品質工学の方向性」も開催された。

# 大会振り返り



品質工学会 前会長  
伊藤 源嗣

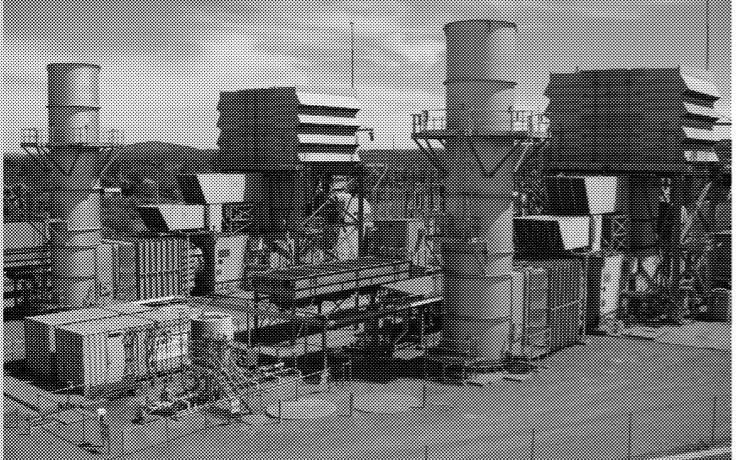
の議論・研究を踏まえて、個別の問題解決や個々の事例研究に止まりがちであった傾向から脱却・発展して、全体最適を求め、社会的損失の最小化を目指す「品質工学」の原点に立ち返り、「マクロ視点から捉えてその進むべき方向を探ろう」という方向性をさらに追求した。

今年の大会も基本的に昨年と同様に、「マクロ視点での品質工学」「開発・設計における品質工学」「製造段階における品質工学」「評価における品質工学」の特別セッションを設け、それぞれのテーマに合致した研究発表に加え、学会幹部（司会者）による各テーマに関する論説が行われた。発表・論説とそれぞれのテーマに沿って品学の進むべき方向を示唆的な方向性を示すものばかりで、大会当日の出席者数員の数分の1にとどまる考慮し、また一般会員の意見をさらに深めるために主に解説の形で集められることを強く希望する旨の結果を踏まえた貴重なセッションであった。

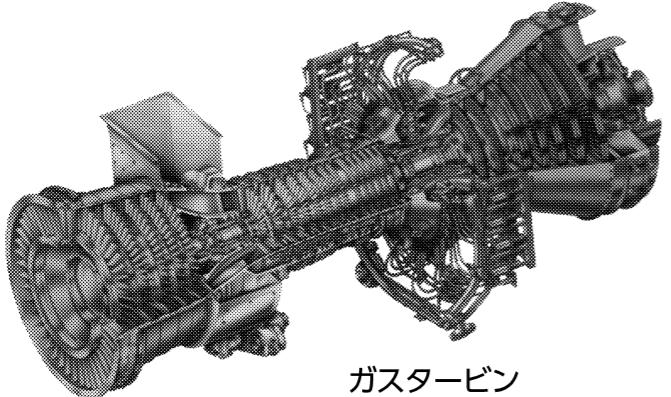
特に論説は昨年までつづいていた「品質工学」の特徴をさらに詳しく整理され、含めたこの3年間の活動が理されて、品質工学の体得されることを強く希望する旨の結果を踏まえた貴重なセッションであった。



**世界中で稼働するガスタービンを  
IHIの予防保全システムが年中無休で見守ります**



## ガスタービン発電プラント

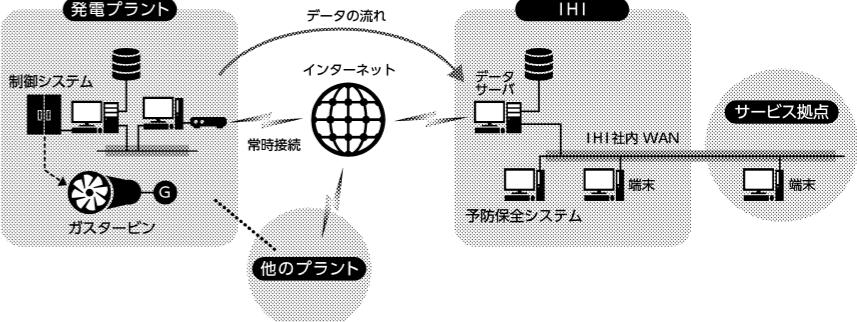


## ガスター・ビン

だから安心。高い信頼性で安定稼働。

#### **安心・安全・高信頼な、I H I のサポート体制**

安定したエネルギー供給源として日本、そして海外で活躍するIHIのガスタービン発電装置。発電停止を未然に防ぎ、プラントの高信頼性・高稼働率を維持する「お客さま運用支援センター」を開設。



株式会社 IHI

〒135-8710 東京都江東区豊洲三丁目1番1号(豊洲IHIビル) <http://www.ihi.co.jp>

お問い合わせ先

エネルギー・プラントセクター

営業・マーケティングセンター 国内営業部

3 Tel.03-6204-7723